

發句五百題目錄冬之部 家 爱也是 色夕忌 外各自 七 十一百 修作療 天艺季 小 基 大多校を 枯尾龙 同あ 榜思 华 南 私聖 悉老品 本の系 ** 枯柳 初查 数な素 あの市 奏 あける海 林山於

神圣 多餘 绮 福 ぬる先多 师老 きはみ 後 年点 水 十二百 3 李 李老多 その格 汲 76 李 統 好 為 そるる 动 体 古為 事格 福 弘 中多多 蚕 多的格 學學 老 动 穆 神 年いる 绿 袖 その自 舒然季 解發 1 拼 西 移 神 なる

九

橋 多家 山養老 山流 いいるる 惠 個代 信為多 式 (3) 水 巨 るちん 柔の花 生候 麦荷 今年 蓝 参考 外 樂 植 好 好棒 各牡丹 松花智 潘俊 水多 名本五五 衣無曳 新見世 生海為 その城 中中 多は陽 伸も 鸭 格を 太北引 线 意 テ大な 社 楼

發句五百題冬之部

雪中 共角堂 庵 堤梅永 年機 雨

編

畫

信者や外本自しいかられる

十月 百多新

学の中なりないはは外子自

荷 凉 宿 風

ちからる桑の一外する

えるか~はできるいれて関のあり

ですとくかっちゃ面はる

目錄 雜品 大家でとな 拉支鱼 係於總索 終 寄水塩 星佛 ないないなら かる風

步 信

大城的

全级机

火ち

3

灵

〇季

天長子

するられぞあけるとのる

仝

西の市



計書考 初 去 天ちるやっちょう お寄やはまるのうり思りは 表了成門的 等方 如冬中的外外四军社会 されるななされ 分考や小四一枝多沙司 初名はい事的をはる人 如本日常事了為小第 おそそうのがきるなみ 房四本的 如今中的 かるとこののおすともろいい ろうされら 一個四十 好多 梯 指 枝玉女

直

笠

達摩忌 芭蕉志 成次發 033 意序点や指引的了持一つ お奉命中接一根るいがあ 意為兵亡子の被のうなはは かかのまでころう論の はかりぬまやけるの十二い 松からあるけるようあるい くらなる一种のるるる ある人があってる!一村屋子 るるやとられているのも 意を思いるのからおうなを 直聽是也有与私次便引 意意思也如一日子夏唐什 直摩思やおようといいのは 金のおはある我はるはるか とうなくてきやかのね 11 其

內少條 少華京 13 非の松 闸 ちとなられるころろうか 松子やさるのストー あると次華をありの歌いりれ きとなるよういきちょうつ 内方像やる雲水りめるの点 が年やからはきあのいつい がする一望にあるあつしゅ 分をつけるうにんはいかうか が用やけるそうためる 歌シラウ 静 梅 可 凉 和

る好傷 क्वे 堂也忌 古文文を 先老是 するさる 子の あ からいかろうう 奏ないかをいいろうすす るるやのとかようちなのうしき 七多数五中でいれ ちきたの紀は職や京時見 去也是に強いところを神り かくを寄せなうてきるな 月的男子目 不不明 军小子的 方はきるるをなのかしいろんい 招風以来の耐面のあいうれ 部分香港有多时南小 美」され格のよやすのは あうねいちきくいか はる おる再不好面を心障のれ 又かなると時間も村はる けなる思接しれで思をる はあよりとうときなってきか ゆなるの面は終や確め 安のないさりけるしてかける 好かいまいるとうか は 町でにとけいはることれか いるろれないなり屋を見 なつりようやはあるる系統 事を玄峰るの云のり事 一のおんか るめい 1 永 凉 花 芹 K. 道 素 E 梅 月 石 彦 機 風 誓

つえ

PY

聖忠為 04 初时面的大小大魚れ可 前路在在被事了行的的面 我をいなのはるちゃうのはる ないけいなのなりやるのは かられるいろうかはる 尾工度で移出する必ありる はまではるのははタケーラ 对面一个 经本事一大月我们 のうななりものけらうれ 存とるけんるうかかないる はせってやしれるけはあい るとほうちているもけるい 一时的一个好出路翻出的 そのようでをりはるうか すよれなはしきはあっか 夕けるからくらろうううろう そうかえる後ょはまけるか なっていかっくけは一面い 考出考を古时面は降り 一時日月日一時面的出場 お願の信をいういはあか 时面自いか個子的表 万人 らぬも自のあいや 村村百 事をないけらうけるも D 三 羽 当

うめりいるはあまるいのます はあるとうないの 两一年七十八时五子至冷~ はあったをいううがけると りくうられるいるとかなった ちりていれる実あっちいおか 第大招の至月时あるはきろう 松中山南至至西南南 をきなるでもかけいあられ 好ているいかでれるぞけるのも けありやるっちりに一二番 他在内室的打事之前面下 16 方 雪 機

0 4

はるとる 教名生きるきでも そい思はあてき~一代数版 ゆうちのやけるによう 東 はるっているとくなるはの かるとなりするならいい そくろうなるなけるかはあいし 家養了梅男心や夕ける 加多大的な多分中多时面 りるかとまてやかめもうかあ まのろうけあてもうういうれ はおうなまない 一对面看一下腹中的生 默 青 可 玉 尊 亭 暁

調

护 艺 移馬を将名を死にの極 移るやちさい祖上榜のうろ 初至中南台名きるとうなり上 知事の聖子は子様うれ 数をもかけるなきからさかいる 然はらもカらかるまかる 初書やまするないあるは葉 知事になるするが、 和書やそれずりは ちえもかであるしろれい うちれのひつとはる 十年をいいるのあるか 初代



寺

1

霜 遠て男はすり 重や成の素

をうむっまいるはみかつうい

琴

なけるのようわれていましまからろ おけれるうちろうちのあ をきなかっていいくではと にっきいろうのとときおおうん 五七中かかよのます) 猫のよけるにかちつうりい 去去や比勝多ちり吸れな 州各古書は春七本書は女 何かのかならろうさきまない ちって多れ 一ろうだけから しり ショッ 古 喜 龍 产 くき雄 寶 H

名うはいいるのあ そのまやかりちゅうろうさ 例が行るるるようははさいし 落は、おまであるかの」は 日とうくおうするやあみま 小春のはあるのかりある」 まからきて はらかれめかる えろうはているようますり いて来る めりょうできるか 伊佛上世子的学者、新村 をあのなりなめていうされてんりり ろかなるととなるまのり うちのを チリコ 川小東 19 7 三

养

本の差 5 かまりなんあくしているおり 等不公子子は引きかます 小本のやるなくろいのよう あるうまていらいまり そうろうろうちゃまないまない ころとは個子とたやいちと 名うていたいわられいまかい 外福了至鍋の落山寺う ちかられとくなと小支はたいか かまいやから敬めをえり まのゆいわけれるかま 禁 ちかくて 不二いかまはない ちんううなられるの事るる のなうれんていの大きないうれ 日本をはるなまったから 月 をいるをあるりものかますりれ ゆるほうではなるまのます はるいいあいとうとかまうれ はるめるとのはうめいまか ない何で名は小まや小 菱 るに使う山とえるりかまり 佐ろいるりいる自 南きまてかまのくうないろう したぬしるるまかまいりれ h 可 千哥女 小山人 消 梅 倭 當 完 可 堂 草 年 朝

〇名

名

九

為 美 松尾死 数する 至中にはろうてる 本のるまい とくろう 多りいきはくしきやないりから いろうてきるるがななめるか 供名面下将了一个一本任圣林 お夕の本は季にはも行わか いろとのおやれるのないん 至のろいかなっててるるる かっちゅれろうちかっかのるかい をいいられてしめいはしなりも ちなっというなやおをも 葵穴子四五段核の養養 くてからなるるちないとれるい 非好や本の第四五松砂日上 山の井ははるちきて渡るか 持てする地下くるる病気 大なといつはったったるとって 何のはまいとの過やようれる 震い子は有子順とさいなか 徳のあいんなりはっているる ちろうをあるしるいるか 変あると後ろなうつなるか 動うといるのあるとうなる 小我妈~在了孩子了多 インかられるかる 七一 思 青 蓝 有 採花女 紅螺女 當 鬼 大 喬 笑

のす

站 野 学れいりもなせやちりるう 人不明世号与太中 枯尾 言 するのはりなされ 野り 日のたるかのそろれりい 自然一本心的体 るはっていけるなれやか のとおうておいろうともろんるい をのかけ町とえるでおすさ 子女のそのなかは至の不二 九光月的方的 格尾玉 おかりいるとうちはをかい 以下去夕自知一枯尾 各 考ははの言いあるお中な れるのきちょくれらの おまん えあうるは 教子のおようれ かんちんきの内方右を放 あるるるおとうなっと 村面七到人村一為、为的 とのよんすくるいろうおんち おりるゆうぬきやれるいき 枯格了老多的老牙无好一本 はらくではるまでいれずか りいいかれるでもしれせい 老後意 一相尾品 有 晋 巨 完 -泉 聲 鳥 年

のるか

壮 枯 妆 3 学 将 枯るやはりはしなるの るなではるらけっきりちか るおやのいきしかりりの事な おならないとなる 田や夕のでするはるると ようとやいうでも自いるるの 本うとやかそれ 田や武山て在てのなる外 全中私先多之 かる 民 即月收至了 時可 果するときけかれる 本かったきいるはあれのい ちているなをひろれはなる 不二きうえをていれておおすべ 川多一场竟林堂中的方言 であるみに物的されずうれ ちをそうしるろうれら、佐 枯芦中径復後一部了陽 北美の急出に名る自むうれ おくていていったかるおい 格中不多を行るお おせるのなるのえるできょうろう 花先不面不不養き枯野か 随ありえるてをなけれるうり 一多つり 被 100 婆 事 上十九晚 ツカル 古 科 4 鳥 快 左 謌 里

04

士二

多吗 母やる格子子 等の先 果の世出の行自奉うれ 後のや何のもかぞあの名 你の省城山中品力學 中でうりたろうちゃ ようとうこましているかか 母するちゃったらい吸るで あるかるようからるるん 後するおはなるとんことうい 海板の者のが~ううちょうい 第のたやなってをからするするす ろうちっぱくやうとうい けるやまないるかかり 田で馬豆でりある 学れるとかり ちっと自 そろうちるうのい うのやめなるまいろはあ はのういあてお松八十多春 成ならとうてのるるか 小タル對 採花女 花庭 梅

のみ

ナニ

ならる 限やなける方り的小兵 果りんやまったといのあり 果にもうであるりで 養養 田子書きてきおうれ や祝任至の小松町 馬

炭 本 人人 日子はてあるのろうとうとうかん おうとうとうのろうろろうろう らろいかちょうから一本い 自己一個多人子子多数 南やいろのかてあたのか 再本なであるでぬくれるれれ 至了るいです 神色で成る方 とうかりとしているというなかん 和自己不能一个多人多大 後でるやうちりより山 大はてかないまったい るればるあまるろうる 意 山山 花 旭の本 公 直

いる場門つりのあるろうれ 自新とけれるころよろい 後年 ちありかや ゆるる 和るなる教表る多好為気か うかのまりのからよるうあ 内村のはより年一張る多 二的韓五友時中四年多四 お名の人生了古藤房 多いるうできるるいするい はるをふるりてけるるい るるにそうりいいるる でのない人につるうちをうち 清 霞 枝玉女 尚 月 里 竹 111 發

34

いち

帽 桶 古 了四八年中古後の自己了的 おおれのうろうなかい るとうないととないろうな 京内奉言方格の名 楊老や物は一ちの多格と なるやないるのぬったり そうちゃろうけいかしぬのな あ巻や二一場はなからうさ なるからきてくちかれたい わせんたで、あのはあるはくなり 橋のちゃろうくれのをあり 金松では付めるです 本 るうターでするおののは神か なゆちゃるいちかるかりか 松孝でくつきるるのりなり 金谷やまるはれぬ好り太 名かり名のはしいいかりれ ますからまれるおい 被物の多に到了是了各种 能力と名件で一根のち 吸するないかってきゃれかり まるとうけるる 海や海焼す 一名で将中向ける橋大い ろはではなり 一指する 應 左 旭の本 哥 尚 P 14 朗 献 整

〇分

十五

3 巨 陽 そは湯 頭中 殖 松 悠 流五然や終了海でと れりす 例的中文建山中北安至城 成馬のおもからうとは横か をすを確しまする巨性りの 後さかっれまではして大の高き おゆやす種のからず様の上 万女の勝月中門 巨性 なすらかっちいおうおうのな 個多点極為好るのな様うれ 事人子子上巨姓のかあ 書後かりするでありるはい 養するとる品好~巨情い せなやいかんぱこれーたのあう 為了持のいろうけは多まする 焼のとすで 郷とあるされる ある我的女子 巨性 林 そうきみるるか巨地か 五雄うろろではりしかのの移 柔好りのるとはているいのか れなや人のをうけをいるうつ 作子中のりならせつり 名は年もなりるでありれ かしくうとるはそのいいいのか 古秀 喜 を書い 三 驚 花 晋 翠 谷 江

敬うちいしろうごきてい

月

室

つき

十六

松把各 石芸元 山茶花 いまならいまでうけるこ 山東あけちゅうととうかりり 山まであるとはしてゆって 山軍我的教文文了人的動象 ちんなるまかりあるち そうかというるやれおらる おうの好りしてやれだのる かまるやふつろとして小一下自 得くまちるなんのと 割いねる日本了海 母えんけいは本年十八 山京なら行おしれるよう 山東るやたるのきちのうち 山系為時中神事有力的 いるかやなとのできるのる のまるやらに多のうみ格 山まるやりもくといるる 山るかやまでありいるである かるなやはとなるとからら 山茶ない就自後であるうち らるまでのないたるとのやかりょう 山系流や玄変ならはなずり うい思さはるるさなりおんうと あるけれているんであるる つや 江 守 登 翠 吉 左 宿

つる

十七

李松丹 段応答 府 いる私 多のる 元 A 京の名や金城をお称しち おきをあるとうとりを掛み お至りなるとうのやる はてるとすのもればりる 高いるでしめてえたて はか 佐を以為やつてんるお日 多多名人一つらて海る 凌荷や部は一般 きし 麦荷やむうちっきまり 重為や好的をある 白いか 金松的行物公人的子多少女 山里するるまちかでか かうあいはしまれるるる あのおんてんなちかかか 名書に持いおし者う時 本好をやるべは ある自 をかったいいっちょあうは ですいはるいいけーハマるか いけんつまるからあいろう するとうというといいとはさし 素のんというしないわらうれ れのおまるのなりではろい 我了人の後で出る山 作物等である 龙 山田 可 石 好 柳

04

ナハ

考考 本外西 院路多 多 天子行了行不過至加多下 そうというい野ろうでる時 細いてきる世代ではる するではれることからか るるなりのりのから かるはかってるとろう 等のや小筋いたるのは 今る 小之七色生元等の写八中 かつうかけっているとはある 物人は直及に中野り あるのかけるるやとはある 養養や止めまいるるとあるい 麦荷や雅やるよんなあい 麦角的是月典了的作中 くろうでぬるをあってしますり かるやりまりかりた 山名なる了了るやはの数 えるのできるテいめれるい 水をはるるいとでできる 時のや五月村のをのり かろうなやるがしはり上 ちずらるろうなところかい しらずんてろうたはなる 林花女 採花女 片舍

支荷でのちちあうタアい

一年

,

十九九



宁发招

李本生

をきるいちろみではやなこつ

倭素樂可寫可一樂全大之莊 草青成美朝朝大成 喬了水

布 金 烟 入 生海流 子つを 坐 族 飲らる一家なの野」生まりり はるますもかといけないなかっしまでうう 考養了是同う了多本か 好物のいけられり人人 作一方に信題社等上代名小 なの中へれのできれるうれ あるいはやなれもりとき 川和やあめるころのかな 考えんとないはあめかりいか 吸言者与去~一個代名 伝考かあさいりきべるい 多つうくいろったいかるか 《名名人名其子山 ウタイカナいてれてはは海へ 一大なるちちょういろろうれ 個人ちまというかっるでえん 妻子られますうる祖人い やつういちれつまとしたうるれ 要ならくかともかと 我名い 我多りまいするるる例父子 そるとうもまえて個代す かるるいかるいう 白まはことはえてるまったんか ~ 様でいるってくろう 組代す 完 三千代 椎 花 雪 霞香女 驚 梅 自 三 陰 宿 潮 芝 鳥 月 朝 唱 肝 朗

のえ

秋色了 世之就 城路の女久多で表 和無门やならち 表無曳 りに言や私無り しないではある男

〇春

委 数 葱 自のなべませるまで春季 るるをなける好り違うれ おれるれたちろうするといい まれたましてきるいかっまか それといけっかっかまっか 面ありまなくてもうろのを 降上冬八月子内子家~ 意体品や大工の早は森 のなんまるとうにまる はのちゃうからはいいかろう 意思できるのなけできる お人の明を翳やるちき 芝 松 E F

あえせ 於原依金两几十月春日布益華 自るい大何多、梅、本本 をおて四門なるや人物する 強人の名きっろうというとは 信令ある人は柔を放す去い がらせのまな はろうころのか 初~多好次多方で面力 在 图到的的月的了 中表者 幸

本

東右を

松くいろうるな

そうちぬら城田や十七の子

くのないうてきろう十ある

1

一十二

あると思さのういけをはか

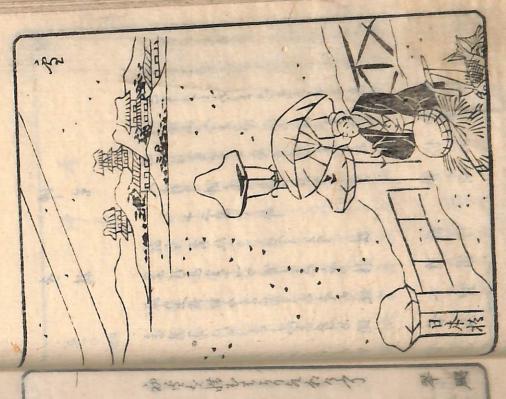
统三池

多樓 重 师艺 は出きいあきりかりるけん 金岩市以下色十分之多的概 なの上板むろうてあるいその様 累度色月 四年人免免 楼 祝七喜れるらうちてき 横 人る行うゆをのあはんやろう きすっておるのをの最五意 月童一人不管活師をか 相る好名生山初め内を 了れ 神をやまるようろ かけはまあるいろけろいるか 十二百百子孙 一地の場 省 斧 刪 松山 北翠 愈喜 0 K 海

夸 武 その概 神樂 そてなのはしかうしろな 今時を後介れる 多の瞬 うる式のとやろうあのは 黑是年代了如此方的十九 聖のちそれるちりに不被 男子一般の子をやる面機 神をならえるとなかりまりぬ 竹上男のきんるとあるるなか るのなくちのとうれいるれる おくてするこれのよで外去 母は人の神をきるれるようぬ は七人の後もうきは存在 三千代 可美 霞香女 對 驚朝 朝 E 花 遠 湖 盛 几 月

の大

平三



所言不生生を見る事人 F いころ 地でる 本等 養神る 本 紫 明られるからからからから あるのはよるとなり、本 黎 ちゃったるなるのか 本 头 松着水水水水水水 的なるのかといめのか 米 " B down friend they - we 秦 草 图 るとなるはかのまれてるのまかって 冷 康良 花いるるまされてもりは明られ 命主 X 17 遍 者ともになるいろ、ち

名をやはうなるりはると 人種のしてう彼やあるる をするかれるもはらい なるるとなりなってきるの 治的本時年出一年的獨比的 明美りなくしてうをはか つりとういかないとうできるのな あるやるころとりゅつき ~ 作情切り一谷日を 係なやもうと意味すした 我 好人 在 修了 られてななるいろやきはれ りするおとからけるので 後できるでなかりをの室 柳枝をはせかれたかのき 子ろとうのはるてきはあ ありますれるとするでは 後室やおけてすいある面 せりよりやはなるれるず ちきくろうというとをいい なるかる目の務意なしている 自己有一个一多种 かちんはやかりもろうと というとうかんかん 一大橋 . 纸三池 梅 花 大 三十代 唱 見庭 石

〇年

千五

のす をはないとなるはりま 於此山を行うらりま 山 るかのの変にふりるでのか をいれななていくやりりか 好る不多了了夢でをか上 ス四五間後かりとうちる るろうれるべるしまける 端之でをうろーをの皆 人姓了多好姓命十十八月 ひまっといいとうはいろうけいろう 自己在人通行的降務会 一下海門方かりを 贞砂 梅幸 洗

本の指す場はほうでいる 重成やおいけんはありは まっちゃん きゃっちゅういろうしま そのになるちってはりをめるん きはそれて社を強うろう 古古事寺寺南南西 いかりるはなるままったのか おゆりいかくまてかき棒 きろうなとでやっちると はるとの教育いらやをする あのできてあるうちうか 林花女 酸 素 梅 明 流 仙

干六

つか 松の第一後とれかりろ おろうとけつとうちゃんるい ないは、なくっかいのうのと 四考好特了方子人的 沙子 松てえるる日村で上屋 が 偽いやこるずの山の自 うりからうるなるもかねい 好自城人中一下唐 ~~~ ぬいや御之はのろうと 面はやまれつりのありつ かとうではゆうときるあっ のとよって をなる連門り 3) 辛七 八十四南 de うつち 貞 花弟 月 竹 卵 蓝

北 冰

遠

馬、進

九羊此

鵲

方

鳥

梅

疼的 小体月大松枝丁 るよりからうくろうかののできて そうる。 人等等人意言は这大声のり 自みるて相のみるとず 我からはりかりるとうれ できるちゃんるるいのから るるかかる はるめ信州

04

甲る意 神 呼 はあいまとてみていれるうと 不会之外人的為此版為 そでうるではようるれん 公信的の書き 後年名をきの外外中 はきおけまるかられ神とう 書の一下来には了神神 名や 年之が中マされか神で かのたや解係は多い神中 安生 後見かりやけるさ 了公兄多多多 新押 生ものとしぬれるけたるい をそいあのあっせす 山内のなるんとついるころうれ まってからなーはりり 府勝 酸布女 馬 他 連 自 倭 To 刺 鳥 雄

るといるはななさるかさい でからからしまる か でるこちっていのかっている あちらおてでもおおか なっていのことかりくちょう はきまっておらってはい そうからいろくろうそうか それなりかり 等のでん イナハ 三 月 年

-

〇季

テル



なりまるかきおするを持ちるる でからためるける町すつる 初表を持ら得やかせきる 降しかっきかっきの義から できて、まるるるぬ神了る かれなくタアふう 持る ちるやすりなるのものる るの時はないあいありま をけるのでもいれまない かかうなるうちやあの五 するまとうなりぬかの大

からて 能之ぞ 金の格 争政格 多の南 金のこのかきる一年一色的重日 あいると相は男っあのですん! あるとかなくそろかのは 各変のまにはううそのあ 他と中でまるははないるとす まのするのですてきの月 おうかのよる我 好りきをきろであるは そのお後をいるると言い はってやりいちのなの 梅 でするかりけんをのね やいったいきいあやその格 たらち 步 詢養齊

李老多 如至 四日 吹 如至けちりくわっぱまか 的至中食は多八八十十十二 耐至であのは「中かっとう 作るのする松哉去のちぬ一丁 学品吹や 多地は無の多いかめ かるいのなるなるよべはまれば 大級多個とおきれりでする ようあってあるいやいを送る · 大多· 万元一起日日的 吸的多名的色色了都不了和 為了其でないするとな 数支付孔のようえぬるとう 坐 荒洲 竹 喜 淡 朝 袖 文

〇を

一十一

姓 幸 此

様はやけるけるはのますれ

13

纏節

信きんないかやき 格男子立有事中的 続いるちかぞろこめて かおいるんでるかりみな 性神と人といえるにを多 いくくのまっとううすい 山里之面的都有事事 そんろきなりまん るはやいかなのよう神 あのぞれた

专品解

物だる

そうかにあるれやみなる おもといるするかとしたは月 ちおいたっさいて多数 中のは十九十七十五日 班公城市公子 婚宴 おはうかなっまであった お 報を本は養城をしいよう 多さいのはやきの自 格的 多為了一年新 を記り行人がためり 路中的一大人体的社奏 魏 3 月渚 宿

李至 年の本 再多个好多卷中慈味 中意は做講像也老如病 のうるはためずあうるをある 為事はう羽る松命や南ヶ宮 利う皆にてしい 男をかい いわりて好るのかり身の帝 あの門柳のおや名配 かつのの変いてきるうちかのる ろうなれるでとる 配り 経り数学ははるやきの形 雲如中東國的多八年內 本 今で夜神きるりちの年は 布 というらんを下す 報子 え jih

〇春

霞一直梅斧風如壽來了可

金苑

Ber - JAY

sing the the mond of the 好福の様のようかが掛 りろれのななのといは時間より 京月とそればいる一妻と本れ 産を入りるがのるかの 松倉を分才傷了妻となれ るとなるとないないとないまれると Boton to the first and what I'm magaren & Boardout とないる内の出いないよう February Michigan cuis of its a solve

北下 華 黑 夢 指名 是 111 精 其仙 訓輯 头搬

柳平

等。

蒙

五 相 前のおりまる存在院中ある 海海等 墨 社文皇出上後城十八年之後 社文意 奉 雅 を抱めているかろるなり 李庆线 米 12 禄分份一个豪名中上江坡 F 養人ういちらちりまりまか 器 平 置該にためいれや年本本奏 題 雪 解語の何者に有いなべい - R 14 馬 年十年まる事一年人 型 豳 it so sol simo someway F 本 東月の夜をうらや様の墨 樂 雅 圖 女 となるる事をのまれがかからから

光 行信中華の必然及正之十 - She show sound the # 3 あるるなっているかのは我 明けからそのちのとかれま 100 きるかん母本の自我の事は最 あるからかれることの 年生のようはそれはのいい 100 よ みからる ころのは word to the to fine of 回 A2 40 1 34 英 が多様えんかっているので 要

0

十一日



除老 星佛 冬腰奶 献 催 大幅的 松雪时 奉 たいといるるるあるはなかん 年号福之路一路川了! いくしたさくと数となるまり 四十七日的 衛子星 件 そのおめからいく ると は 有るはしからいやなの名 間のちゃくないはず 李 城 といういとなるできるとうないます はちまくのまやそのか 子枯の中依は白山思事 そは中である方をか 内福でいる一落去の共落小 そうでるいたできてなれの後 梅的とうは風電子大二十日 医家や野野では大城 天野各次的一名的門下 あてけれたなー大うか である子はまで大幅は 以中に再うするやな場の ぬっさけけらりではあの発 梅日をなるとうちる 村 そとなるなりのというがを あきなめかいやその va 19 快 测 逸 尚 松 鳳 猶 登 霞 風 寶 九 打

1. 73 意 施文 おしまい様を奏しゅうきん ふこうかできったいるさとうち お為やるくる時日ん 光松養る人的 るのかうろうれかんろう あうりはははしまうふこめい えはるするころかの不二 えようなれいれる 面かを来るうやろ していたのりはくうのち 別なよいて解ましたしかれ ようなてきったろうちゅい 大りなけるととりをえる る事でなれまとあるをのか 記書うる好至分的好る のの考るためかくてまるの里 をゆうなったといいいはい たまうちゃいめあめた 変 鹿のちの食りてはしないの 格の下とかりょう 梅さろう きしといるいまろうをは川 しかか 体 碧海 苑 愈喜〇 E 素 直 義 香 好

つそ

0 25 外心の伊勢は放うけの座 やのでるのなめやあは不二 回のなるないとろうとを神 るめをろうといいとなる 幸きなれているといかられ 重動了獨多級樣呢 あってはまるようと様うれ てたるるいとわてないる をでれるるとないのきか 彼先子到了五人の務めな かよけるいかなりとかりしか 独放やすい自い板等 日婚 李佑舒の接私等やで好自 るのためでいってしてかれ されてるくれるのなるからられ 唐了的い何小的是人多の日 自興時次子後的高 あきおんとうろされるか あるかあるとうるるかな あるしまででするとある やとうとうとのかなるめてなるかい 追か四付限別 李 三春桃 良 里 宿

つんか おうのできるかい 日まり のあるなのかりありりい 暴外の意利いるとの内意 孟の上がは、うりょうさん ふのうけはりしかられのか おあのりれまれる か というとためなり むとんう 成不為不由了了以来 の間 ゆかや あるいちまかりす 日本時日俸意名教物業 苦雨の時でなる中あい 神であるかるにをするう いかときにはるえるるるかいるかん 山をやくるいをいか月本 はあくたかきとおっていい いけいとうおうるのからなるま 炭電ならうちあるや夕野 年生了什么 小小五人大山面 でなりあられてい 私のる かりきちられるるる 也女布老 막 古 三升 宿 壺 香 宿

明治十五年二月十五日以版御届 編輯人 出版人 発行所 東京府南萬飾郡小梅村不出番地 仝 仝 全 府際川區亀住里八番地 府芝區櫻田本鄉甲三番地 府洛川區小島水道端里 形部 金 老是

